



平成 29 年 11 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社中村超硬  
代表者名 代表取締役社長 井上 誠  
(コード：6166 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役社長室長 増田 宏文  
(TEL. 072-274-1072)

## 第 2 四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 29 年 8 月 10 日に公表しました平成 30 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 5 月 12 日に公表しました平成 30 年 3 月期の連結業績予想につきましても、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 平成 30 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想と実績値との差異 （平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,500	400	350	300	64.12
今回実績 (B)	5,882	694	624	721	154.27
増減額 (B - A)	382	294	274	421	
増減率 (%)	7.0	73.6	78.5	140.6	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 29 年 3 月期第 2 四半期)	1,933	△194	△297	△261	△56.48

#### 2. 差異の理由

平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結業績については、当社グループの主力事業である電子材料スライス周辺事業において、多結晶シリコンウエハ市場でダイヤモンドワイヤを使用する固定砥粒方式への移行が進んだこともあり、ダイヤモンドワイヤの販売量は増加することとなり、特殊精密機器事業、化学繊維用紡糸ノズル事業においても増収基調で推移いたしました。為替相場につきましても、当初想定しておりましたレートに比べ円安に推移しております。

これらの結果、連結売上高は、前回予想値より 7.0%増加の 5,882 百万円となり、利益面においても、増収による影響に加えてこれまで進めてきました原価低減活動にも一定の成果が出たことから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前回予想値を大幅に増加いたしました。

### 3. 平成30年3月期 通期連結業績予想数値の修正

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	11,500	800	700	600	128.24
今回修正予想 (B)	12,500	1,500	1,450	1,350	288.53
増減額 (B - A)	1,000	700	750	750	
増減率 ( % )	8.7	87.5	107.1	125.0	
(ご参考) 前期実績 (平成29年3月期)	4,992	△1,653	△1,803	△2,075	△445.77

### 4. 平成30年3月期通期業績予想の修正の理由

通期の業績予想につきましては、第2四半期までの状況に引き続き中国をはじめとするグローバル市場においてダイヤモンドワイヤの需要拡大は続くと予測しており、主力事業である電子材料スライス周辺事業のダイヤモンドワイヤの販売量の増加が見込まれることなどから、前回予想数値を修正いたしました。

なお、当社グループはその旺盛な需要に応えるために、下半期にかけて更にダイヤモンドワイヤの生産能力の増強を進めてまいります。製造設備の改造ならびに工場内レイアウト変更を伴うことから一時的に設備稼働率が低下し、第3四半期会計期間のダイヤモンドワイヤ販売量は第2四半期会計期間から微増となる見通しであります。

※上記の業績予想等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因により上記予想数値と異なる可能性があります。

以 上